

第45回 東京モーターショー2017 代表取締役社長 八郷隆弘 挨拶内容

- 皆様、こんにちは。八郷でございます。
本日はお忙しいなか、Honda ブースにお越し頂き、誠にありがとうございます。

【Hondaの想い】

- Hondaには二輪車・四輪車・パワープロダクツ、ジェットなどの多岐に渡るモノづくりの力、そして、商品を通じて得た「世界 2800 万人のお客様との繋がり」があります。これらは、「すべての人に生活の可能性が広がる喜びを提供する」というHondaの想いの具現化の証であり、強みでもあります。
本日は、この想いによって創り出し、グローバルのお客様にご愛用、育てて頂いた商品や、新たな時代に向け Hondaらしい商品をご紹介します。また日本をさらに輝かせ、それをグローバルの成長につなげていく。そういった、Hondaの取組みについてもお伝えしたいと思います。

【グローバルモデルの紹介（二輪）】

- 「生活の可能性が広がる喜び」。その想いをこめたモデルは、国を超え・時代を超えて広がってきました。
- それを最も象徴するのが、スーパーカブの世界生産累計1億台達成です。約60年前に誕生し、世界中のお客様にご愛用頂き、今では、Hondaの一番のロングセラー商品となりました。今回は、エポックメイキングとなった過去のモデルに加え、「クロスカブ」や「125CCモデル」など、新しいカブの提案もしています。
- また1975年の登場以来、時代ごとに変化するお客様のニーズに、最新の技術で応え進化を続けてきたフラッグシップ「ゴールドウイング」も、今年フルモデルチェンジをします。圧倒的な存在感はそのままに、さらに快適性を向上させ、旅のパートナーとしてお客様の生活をより豊かなものにするモデルとなりました。

【グローバルモデルの紹介（四輪）】

- 四輪車も、グローバルで鍛えられ・育った強いモデルがあります。シビック・アコード・CR-Vといったモデルは歴代、世界中のお客様に大変ご好評を頂き、Hondaの「走りとデザイン」をリードする商品へと成長してきました。そして今年、シビックを、強い想いを持って日本に投入しました。
- 軽自動車やミニバンが多く、Hondaらしいクルマが少なくなったと言われるなかで、Hondaには、グローバルで通用する強いモデルがあることを知って頂きたい。そして、日本のHondaをもっと元気に輝かせたい、という想いです。そのため、新型CR-Vも来年日本に投入します。ハイブリッド仕様や3列シート仕様をラインアップし、幅広くSUV価値をお届けします。
- さらにレジェンドも、デザインを一新すると共に、走行性能を根本から見直すなど、フラッグシップとして磨きをかけ、来年発売します。また、デザイン・パッケージング・走行性能を大幅に刷新し、今年北米でデビューした新型アコードも、今後、シビック・CR-Vと同じく、グローバルで販売していきます。

【グローバルモデル総括】

- 以上のように、二輪も四輪も、強みであるグローバルモデルのラインアップを強化します。あわせて日本には、生産においても電動化などの新技術の導入に対応し、従来以上に「日本のモノづくりの強化」を進め、世界の Honda のクルマ創りをリードする、という役割を改めて持たせます。
- 日本で、世界一のクルマを創り出す。そして、それをベンチマークに世界中のスタッフが努力し、Honda がさらに輝いていく。それこそが大転換期を迎える今、私たちが成長するために必要だと考えています。

【電動化モデルの紹介】

- Honda は従来より「カーボンフリー社会の実現」に向け、様々な技術・商品の開発に取り組んでいます。
- なかでも二輪車においては、Honda が CO₂ 削減をリードするべく、いち早く 4 ストローク化・FI 化を進め、ガソリン車のさらなる低燃費化にも取り組んできました。そして、現在は電動化商品の開発も進めています。本日は、グローバルで好評のスクーター・PCX をベースとした、「PCX ハイブリッド」・「PCX エレクトリック」を展示しています。この両モデルは、来年発売を予定しており、市場の多様なニーズや社会環境を踏まえ、二輪車が今後どうあるべきかをお客様に提案していきます。
- 四輪車については、1970 年代に CVCC エンジンを実用化して以来、ガソリン車の低公害化・低燃費化を進め、90 年代にはハイブリッド車「インサイト」を発売。ハイブリッド車の累計販売台数は 200 万台を超えました。本日展示の CR-V やステップワゴンにもハイブリッドを設定し、ラインアップを更に拡充します。
- また、Honda は昨年、2030 年までに販売総数の 3 分の 2 を電動化することを発表しました。現在その具現化に向け、商品展開をおこなっています。
- 特に、プラグインハイブリッドは今後の普及の中心と考えており、今年北米で発表した「クラリティ PHEV (ピー・エイチ・イーブイ)」を来年の夏、日本にも投入します。ガソリン車同等のユーティリティ性能を備え、100 キロ以上の EV 走行と、モーター走行ならではの力強い加速、静かでスムーズな走行性能を実現した「クラリティ PHEV」は電動化モデルの拡がりにつながる、新たな提案です。

【コンセプトモデルの紹介】

- Honda は、ハイブリッドやプラグインハイブリッドにおいても、「役立つ喜び」・「操る喜び」を実現したいと想い、商品化を進めてきました。この想いは、EV であっても変わりません。電動化のメリットはそのままに「こんなモデルがあったら便利だな、楽しいな」という商品をお届けしていきます。ここからは、そういった未来のモビリティをご紹介します。
- まず、最初に紹介するのは、「Honda ライディングアシスト e (イー)」です。
- 「Honda ライディングアシスト e」は、ロボティクス研究で培った Honda 独自のバランス制御技術を、二輪車に応用した実験車です。マシン自身がバランスを保ち、低速走行時や、停止時の転倒リスクを軽減することで、二輪車のある生活を、より安心して楽しいものにする提案です。
- Honda は四輪車においても、「役立つ喜び」・「操る喜び」を実現すると共に、特徴的で親しみやすく、ユニークなクルマを創りたい、と考えています。
- まずは、役立つ喜びを提供する、EV コミューターコンセプト「Honda NeuV (ニューヴィー)」をご紹介します。「Honda NeuV」は、AI や自動運転技術を搭載し、ドライバーの表情や声の調子からストレスの状況を判断して安全運転のサポートを行うほか、ライフスタイルや嗜好を学習して、よりドライブを楽しくする提案を行います。モビリティが、今まで以上に、身近なパートナーとして活躍します。

- 続いて、人々の生活に寄り添い、親しみがもてる EV、「Honda Urban EV Concept (アーバン・イービー・コンセプト)」をご紹介します。「Honda Urban EV Concept」は、生活や楽しみを、さらに自由に拡げることがコンセプトとしたシティコミューターです。双方向の通信機能を持ち、モビリティが人と社会と、より楽しくつながっていきます。また、EV ならではのパッケージングにより、コンパクトなボディに広々とした居住空間を持たせ、お客様に寄り添い、愛着がわくような親しみのあるデザインとしました。
- この「Honda Urban EV Concept」をベースとしたモデルを、欧州での発売に続いて、2020 年にも日本でも発売する予定です。
- そして、最後にご紹介するのは、操る喜びを EV で実現する、「Honda Sports EV Concept」です。
- この「Honda Sports EV Concept」は、どのような時代にあっても、スポーティーで爽快な走りで、意のままに操る喜びを提供したい。そんな想いを込めた Honda からの提案です。
- 「Honda Urban EV Concept」と同じ EV 専用プラットフォームで、さらに低重心化し、より意のままに操ることができる、スポーティーな走りを実現します。デザインは、スポーツカーとしての機能美を持つロー&ワイドなパッケージとし、広く親しみを持って長く愛されることを目指しました。
- 以上のように Honda は、いつの時代においても「役立つ喜び」・「操る喜び」を提供するため技術開発を進め、皆様のご期待にお応えする商品を、今後もお届けしていきます。

【モータースポーツの紹介】

- 最後にモータースポーツへの取り組みについてご紹介します。
- 二輪では今年も MotoGP (モト・ジューピー)、モトクロス、トライアルといった頂点レースに挑戦しています。先日、トライアルでは前人未達の 11 連覇を達成し、MotoGP も現在、年間チャンピオンを狙えるポジションにあります。
- 四輪については、F1 への挑戦を続けています。残念ながら、皆様のご期待に応えられず、口惜しい想いをしていますが、残りのレースは、最大限の努力をしております。また、ご存じのとおり、来期からはトロ・ロツソという、若さと勢いのある新たなチームと一緒に、着実な成果につなげたいと考えています。
- 一方で今年も、大変喜ばしい歴史的な出来事がございました。長年 Honda と共に、挑戦続けてきた佐藤琢磨選手が、世界 3 大レースの一つである「インディ 500」で優勝を果たしました。また、スーパーGT やスーパーフォーミュラもシーズン後半に入り、コンスタントに表彰台に上げられるレベルとなりました。
- 今後も Honda は、勝利にこだわり、皆様のご期待にお応えする様、全力でモータースポーツへの挑戦を続けて行きますので、引き続き、皆様のご声援を宜しくお願いします。
- 以上のように Honda は、お客様に喜んで頂きたい、という想いをもち、技術と商品を通じて、お客様の生活の可能性を拡げるチャレンジを続けてまいります。今後も、ご支援をよろしくお願ひします。
- 本日は、ありがとうございました。